



その想い

第13号

発行人：谷泰智
30年12月8日発行

☆ 富士山修行のご報告と御礼

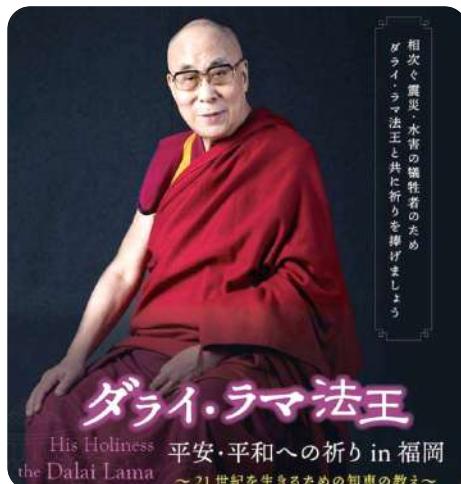
前号でお知らせしていた大和修験會による海拔0mからの富士山修行は、台風が接近している最中ではありましたが、本当に御陰様で事故や怪我も一切無く終えることができました。

また特別祈願や回向に関して、予想を上回る数の方々にお申込みいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

来年も増え活動を広げて参ります。引き続きご声援宜しくお願ひ致します。

国内の各宗派から信頼を置かれる宗教新聞中外日報に
今年も取り上げられました。

 ダライ・ラマ法王の御法話を拝聴してきました



2011年まではチベット亡命政府の政治的指導者であられ、現在でもチベット仏教の最高指導者であるダライ・ラマ14世が来日されました。

ご縁が繋がって生のお話が聞けるというめったにない機会となり、会場設営のお手伝いも含めて福岡での法話会に微力ながら携わらせていただきました。

厳戒態勢の警備の中、車から降りられた法王様は少しお疲れの様子でしたが、間近でその御威光を拝ませていただこうと低頭合掌し回廊の端に控えていた我々がお目に止まると、なんと法王様の方から握手をしていただけたことに恵まれました。

本堂に進まれると、御法話に先駆けて20分ほど読経をなされ、この数年の間日本各地で起きた大災害で亡くなられた方々に対して、大

勢の日本の僧侶と共に供養を営んでくださいました。

この日の会場である東長寺の秘仏千手観音立像に正面され、一心に祈られる法王様の御後姿。そのお背中を見つめていると私には何故だか不思議な懐かしさがこみ上げてきて、気づくとこちらも自然と合掌をし、法王様の神聖にただただ引き付けられていました。

御法話の中の「これから日本のお坊さん方は、読経だけでなく例えば般若心経の意味などをもっと世間の人々に解説してください」というお言葉に、私は背中を押される気がして嬉しかったです。

 聖護院への参拝ツアー、来年4月9日～10日に決定しました



聖護院とも調整が済み、日程は4月9日（水）からの一泊二日と決定させていただきました。あくまでツアーという趣旨で企画しておりますので、檀家様同士の親睦を深めながら本宗をより身近に感じていただき、また聖護院以外の京都観光なんかもできればと考えております。檀家様各位には、参加申し込みの用紙を年が明けてから改めて詳細を添えてお送り致します。

 12月27日、午後2時~

帯屋町アーケード内にて

高知県仏教青年会による

歳末助け言い托鉢に出仕します



回りて向かう



お香の話し ~その2~

近頃、御仏壇はあっても、お香をあまり焚かないお家が増えてきたような気がします。焚かない理由として、ご高齢の方の独り暮らしで火の気を心配されるということも多く解るのですが、宗派を越えて御仏前の中央には必ず香炉が置かれていますように、仏教儀礼の中で最も尊ばれているものが実はお香です。

夏休みに開かれた高知県仏教青年会の布教行事『子どもの集い』にて、匂い袋作りの講師を務めて下さった清水悦子さんに改めてお話を伺いました。
(以下、清水さんのお話をまとめました。)

『香害』という言葉が最近注目されているんですよ。部屋の芳香剤や衣類の柔軟剤さらにはトイレの消臭剤からブレスケアに至るまで、現代の我々の生活に組み込まれている多くの化学物質由来の香りがホルモンの働きを乱したり頭痛や吐き気をさせたり、実際の身体症状として悪影響を与えていたりということが全国的に報告されているんです。

そもそも四季を感じて営みを築いてきた日本人は香りに対して敏感な感受性を持っています。いわゆる『お香』の文化は仏教の伝来と一緒に伝わったのですが、それは平安時代を通して後に『香道』として洗練され日本独自のものになっていきます。

香道の世界では、香りを鑑賞することを『香りを聞く』と表現し、さらに種類の違いを聞き分けることを『組香』と呼んでいます。

身近な仏教では主にお焼香の中で使われている白檀や沈香が有名ですが、これら天然由来のお香全般には防虫の作用があったり、香害の逆で良薬として焚いて鼻から体内に取り入れることで、身体の不調和を調える効果が大きいにあるんです。

ご覧の通り、ここにもたくさんの種類があるんですが、これらを組み合わせて調香する時には『五大香』というバランスを常に意識して取り組みます。



ほとんどの場合お香の原料は植物、中でも樹が多いので、そのお香が樹のどの部分から精製されたかによって五つに分け、その時々の趣旨に合わせて五大香は調香されます。

例えば、山奈はウコンの一種で根、白檀は木そのものなので幹、極上安息香はエゴノキ科の樹脂、スパイスのクローブとしても有名な丁子は実、そしてお庭のお花として馴染み深いカミツレは葉、というようにそのお香の由って来る大地の恵みに感謝しながら調香します。

実際に近年は東南アジアやインドなどの原産地でも健康ブームが巻き起こって特に

香木が以前よりも大量に消費されているそうで、その影響から日本に輸出されることが難しくなって値段が高騰してきています。

また、香木以外でアロマテラピーなどでも使用頻度が高い霍香は、パチョリという草花を全草乾燥させたもので、これが精油になると香木とは対照的に凝縮された強烈な清涼感のある香りが放たれます。

そして五大とはまた違った『薬味』という酸・苦・甘・辛・鹹の5種類の観点から分量を調香し、各家庭で継承された秘伝の『練香』でお客様をもてなすというのも香道の醍醐味です。

『てふてふ』の清水悦子さん



隠れ家サロン*『てふてふ』*
高知県高知市東秦泉寺94-1
TEL 080-2971-8444
定休日 不定期
アロマテラピー&着付け教室
&エステもやられてます(^^)

★ 葬儀屋さんに聞く



左 右

尾崎 誉幸さん
(弟) 29歳

近年の都市部では、僧侶や神職を導師として要請する従来からの葬儀に急激な変化が出てきているようです。

導師を必要とせず、また宗教的でもなく、故人を偲ぶ為のお別れ会のような形が徐々に増え始めている状況でありながらも、僧侶である私は敢えて委縮せず、仏教の意味性を説きながらより積極的に葬儀に関わって参りたいと考えています。

そういう訳で、今回は地域密着型であり且つ私と同世代でもある枝川葬祭さんにお話を伺うことで、葬儀に関わるもの同士の意識を高め合い、また想いを深め合うという大変意義深い交流が実現しました。

巨万の投資回収の概念で動く大手企業とは異なる、『町の葬儀屋さん』ならではの大変さややりがいをお聞きしてきました。

円 この仕事で初めて葬儀にあたらせてもらった時は正直泣きました。それも自分は全くその方のご生前を知らなかったのですが・・・。

誉 それもその一回きりじゃなくて、兄がこの仕事に就いて間もない頃はちょくちょく有って、そんな時は兄をカーテンの中にコソッと追いやっていました。(笑)

元々は祖父がこの波川で大工さんをしていたのですが、そこから石材店を起こして伊野納骨堂という屋号になり、その葬祭部ということで当時事務所が免許センターの近くにあったので枝川葬祭という名前になりました。

円 そして現在ここに『ハートホーム紹』という会館を構えさせてもらって、枝川からここへ事務所を移した今になっても名前は枝川葬祭のままですが、最近は『紹さん』という名前で通っています。(笑)

坊 夜間でさえ気が抜けないようなイメージがありますが、お仕事はどんな流れですか？

誉 やはり、先ずはお電話を頂くと深夜であっても病院へお迎えに上がります。そして以前はそこから保清の処置をさせていただいていたのですが、最近では病院の方でエンゼルケアという形でお化粧まで施して下さっている場合が多いです。でも、時にはご高齢の女性でチークが物凄く濃く塗られていたりして少し不自然な場合はこちらで手直しさせてもらったり、男性の場合はお髭を剃ったり、顔色があまり良くない場合はこちらでより生前に近い自然な風に、と場に応じた処置をさせていただきます。

円 10年近く前に納棺師にスポットを当てた『おくりびと』という映画が話題になりましたが、その時は半年間ほどいろんな葬儀の度に御遺族からあんなふうにして欲しいというお声を頂きました。でも我々葬儀屋は納棺師ではなくて、納棺を含めた会場の設営であったり司会進行であったり行政への手続きであったりと、葬儀全般に携わらせてもらっています。もちろん納棺の研修も随時行っています。

誉 ですから、私も涙腺が緩い方なんですが最初の頃は緊張が上回っていましたね。司会のスピーチや特に御弔電なんかでは普段読み慣れない漢字や個人様の氏名など間違わずに読むことで必死でした。中でも仏式と神式による違いや、いろんな宗派のよって別れている細かな違いなど、時には尋ねやすい和尚さんに添削してもらったりして苦心しながら今に至っています。

円 最近でこそ、御遺族と葬儀屋という違いを意識して、当たり前なんですが我々は主役じゃなくてあくまで裏方という意識で務めさせてもらっています。でもその一方で、昔祖母から言われた「亡くなった人は自分の家族と思って大事に接しなさい。」という教えもずっと胸に刻んでいます。

坊 普通の会社であれば笑顔で接客というのが常識なんでしょうが、葬儀屋さんに限っては笑顔が憚られるこのほうが多いですよね。

円 確かに時と場所と状況に応じて御遺族とどう接するかということは大変気を遣いますね。実際にあった事ですが、御親族に冗談好きな人がおられて打合せの折に不意にわざと面白い事を言われて、不謹慎なのですがその時は泣いてしまいそうになるのとは逆で笑いを堪えるのに必死でした。(笑)

坊 逆の状況もあるんですね。(笑) では、やりがいを感じる時は？

誉 何気ない言葉なんですけど、全て滞り無く済んで「ありがとう。」と、言われた時はいろんな迷いや悩みが報われる瞬間ですね。

坊 では、最後に枝川葬祭さんならではの強みを教えて下さい。

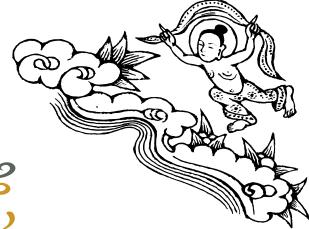
円 やはり地元ならではだからできる、葬儀後の49日やお盆のお手伝いなどのアフターケアでしょうか。お電話でも結構ですが、直接お出で下さるとより詳しく親身になって相談に乗らせていただけます。

御用命は24時間
0120-84-0366 まで





お経のことば



六波羅蜜の解説 その2

ジカイ ハラミツ

ニンニク ハラミツ

持戒波羅蜜

忍辱波羅蜜

布施波羅蜜に引き続き、今回は二つの波羅蜜を一度に紹介いたします。

伝統的な宗教と言えば、洋の東西を問わず誰もが『戒律』という言葉を連想するかと思われます。けれども当の仏教に於いては、戒律とは『戒』と『律』の二つが合わさったものとして捉えられています。

二つの違いをズバリ端的に言うと、それは罰則があるかないかの違いです。

もっと具体的に、スピード違反で道路交通法を破ったという場合で考えてみましょう。運転をなさる方はイメージしやすいかと思いますが、普段の運転で法定速度を意識するときの皆さんの思考はどのようでしょうか？「あ、パトカー！」と思って慌ててブレーキを踏む人もいれば、パトカーは関係なしに安全運転を意識して適切にブレーキを踏む人もいます。この場合、前者は律の意識が働いていて、後者は戒の意識が働いていると言えます。

正にこれと同じように、仏教の歴史に於いても僧侶が修めるべき經・律・論の三蔵の中の律蔵という形式で、人間として当たり前のことから些末なことに至るまで事細かに律は規定されており、大昔はそれを守れなかった僧侶が『波羅夷』という罰則を受けてグループを追放されたりしたようです。ちなみに組織を追放される『お払い箱』という言葉はこの波羅夷から来ているという説もあります。

対して、『戒』とは上の例え話からもお解りのように、「安全運転を意識しよう！」というような自発的な心掛け、つまり『なるべくそのようにしていこう』という前向きな戒めを意味しています。

では『持戒』を日常生活に於いてどのように実践するのか？と問われれば、私が即答しているのが『目標を持つこと』です。仮に来週に控えた試験があるとして、それに合格することが現時点での目標であるならば、やるべきことと退けることは自ずとはっきりしてくるわけで、なにも浮世離れした禁欲的な戒めだけが仏道に適うわけではなく、皆さんそれが今いるその場所からの第一歩が六波羅蜜では尊ばれているのです。

三番目の『忍辱波羅蜜』とは、一般的には『耐え忍ぶこと』と説明されています。

しかしどうでしょう、苦しみに打ちひしがれて藁にもすがる思いで坊さんに助言を求めて、帰ってきた言葉が「・・・耐え忍ぶこと。」だけだと果たしてそこに救いはあるのでしょうか？

私自身これをどのように解釈すればいいのか昔から悩んでいたのですが、現時点では『耐え忍ぶ』を『しばらく待つこと』と柔らかく言い換えてみることにしています。

未だ人生を語れるような年齢ではありませんが、切望する願いとは真逆の『どうにもならない』という圧倒的な現実が何度もやってくるということぐらいは私もわかっているつもりです。

また『諸行無常』とは、良くも悪くも一切は変化していくという、同じく圧倒的な事実であり、その諸行には億千万の想いや感情や意味も含まれているのです。待つことで何かが得られるのではなく、待っているというその事さえも忘れてしまうような無常の中で人は何かを学び、また再び歩き始めるのです。

☺ 楽しい行事案内 ☺

- 3月21日（木）祝日 献茶彼岸会 & 奉納演奏

- 4月9日（火）～10日（水）

護国寺檀信徒による聖護院参拝ツアー

- 毎月28日の9時と3時は護摩を焚いています。
お気軽にお越しください。★葬儀の場合止むを得ず中止有り

本山修験宗 大瀧山護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

☎ 0889-24-7244

ホームページ gokokuji.site

いつでも、なんでも、お気軽にお電話ください。